

地元の皆様に 支えられて…

職員OBに

蓮ダム建設秘話をお聞きしました

蓮ダムが運用を開始して今年で34年経ちました。

今回のちゅ～すは、蓮ダムの建設当時のことをよく知るOBに、
貴重なお話をいただきました。

お話をいただいた方

いけだ やすゆき
池田 泰幸さん

蓮ダム管理所職員OB。
昭和58年4月(1983年)に蓮ダム本体工事の現場監督として着任し、
その後6年間、蓮ダム本体が完成する頃まで従事されました。

今日はよろしくお願いします。まず、ダムはどのように
できていくのか、あらましを教えてください。

蓮ダムは、コンクリートの自重を利用して水圧に耐える
重力式コンクリートダムという形式のダムです。ダムを施工す
るため丈夫な岩盤までの基礎掘削が終わり、ダム本体の
建設(コンクリート部分)が始まったのは昭和58年(1983年)
でした。私が着任したのもその頃です。工事の前には基本
計画というものがあります。それは、どの場所にダムを造るの
かを決めることも含まれます。ダムの位置決定について流域
の規模、被害軽減は基よりダムの安全性を考え、骨材(セメ
ントと混ぜ合わせる砂や砂利)を採取する原石山の位置や、
地盤の硬さなどを調査のうえ、複数の候補地から一番効率
の良い地点が選定されます。そして地元関係者との協議を
経て正式に決定し、建設が始まります。基本計画にかかる
期間はダムにより様々です。蓮ダムの場合は昭和34年(1959
年)の伊勢湾台風をきっかけに建設計画が持ち上がり、十数
年かかっています。

ダム本体工事は、ダム高が78mと大きく、ミルフィーユの
ように下から1層1.5mずつ重ね上げていきます。コンクリート
打設は24時間休まず実施されました。



コンクリートの温度が上がるとひび割れを起こしてしまうため、
温度を抑えるために水を流すパイプを各層(1.5m)ごとに
配置します。堤体の中には監査廊と呼ばれる点検用のトン
ネルや放流ゲートを組み込んでいたり、所々に鉄筋が入っ
たりし、設計図はとても複雑でした。使われている最も大きい
骨材はどれくらいだと思いますか? ダムの場合は径150mm
で、これはコンクリート構造物のなかでも最大です。ほかに、
水漏れをしないように岩盤やコンクリートの隙間にグラウト
とよばれるセメントを充填するなど、ダム特有の施工がありま
した。

3年ほどで打設が完了すると、昭和61年(1986年)からは
実際にダムに水をためる「湛水」が始まります。これを試験
湛水といいます。そこで水漏れや、ゲートの不具合がないか
を確認すると、本格的な運用がスタートとなります。

当時は忙しかったですか?
現場の雰囲気はどんな感じでしたか?

私は現場監督という立場でしたから、建設作業に従事し
ていただく方々や、様々な協力企業と連携して業務にあたっ
ていました。ダム特有の工事については技術的な支援を
いただく協力企業の方に多くのことを教えてもらいながら、
大変忙しい日々でした。

ダム建設は一般的な土木工事とは違い、道路を造り、
橋を造り、トンネルも造るという「工事の集合体」です。そのた
めダム本体、河川、道路、機械、電気と異なる分野の事業者
が集まっていました。ひとつの目的に向かって、工事工程を
しっかり確認しながら進んでいくので、チームワークが良く、
ダムでしか味わえない雰囲気がありました。今で言う「ワン
チーム」です。

当時の工事は色々な事がありましたが、何もかもが初め
ての経験でした。1つの思い出として、就任したてのころ、トン
ネル工事で覆工の検査の依頼を受けて現場に行くと、雨合
羽を着せられました。トンネル内側のコンクリートや鉄筋に異
常がないか検査していくのですが、わずか30cmほどのすき
間に潜って見ていかなくてはなりません。顔は油まみれにな
って、こんな大変なことをするのかと思いました。それでも、現
場に集まっている様々な事業者の方たちから、「何をやってい
るんだ」という目で見られるわけにはいかない、「頑張らなくて
は」という想いで検査をしたのが懐かしく思えます。

地元の方々の反応はいかがでしたか?

ダム建設中は、この地域に全国から作業従事者が集まり、と
ても賑やかでした。竣工式は、蓮ダム建設にご理解をいただ
いて転居された地元の方たちを主賓に招いて行われました。

完成後はどうしても建設時と比べ活気は落ち着いてしまいま
したが、地域の皆様は変わらず友好的に接して下さった事を
覚えています。ダムの場合、川の堤防やトンネルができるのと
違って、1つの集落自体が水に沈んでしまいます。住まわれて
いた方にとってはふるさが永久になくなってしまう訳ですから、
寂しい思いをされていたと思います。当時、地元の方たちで発
足した「森を考える会」のメンバーは、掃除をしたり、木を植え
たり、イベントにご参加いただいたりと積極的に活動してくださ
り、大変ありがたかったです。今でも当時の事を思い出すと、感謝
の思いがこみ上げてきます。時間が過ぎると、今こうして蓮ダム
が受け入れられているのが当たり前のように感じてしまいます
が、当時の地元の方の思いはもちろん、ご協力を決して忘れてはいけ
ないと痛感しています。

だからこそ、職員方にはこれからも
情報発信を大切に、地域の皆様
と一体となって、蓮ダムを盛り上げ
ていってほしいと思います。

蓮ダム管理所で働くみなさん、
頑張ってください!



イベント開催報告

自然体験交流会

令和7年7月20日

炭づくり体験

今年も9名の松阪市内の小学生の皆さん、ご兄弟
や保護者の方々にご参加いただき、ダム近くの自然
や洪水体験のイベントを地元と共同で開催しました。
まずは川に入って水生生物を調査。捕まえた生物を調
べて、川のきれいさを確認しました。次に炭焼き窯で
は、バーベキューにも使用される炭の作り方等につ
いて学びました。最後に、ダムの流木とシイタケの菌床
から育てたカブトムシを、ご来場のお子様にプレゼン
トしました。



川の生物調査



1日ダム探検～もりみず旬間 in 蓮 2025～

令和7年7月27日

「森と湖に親しむ旬間」(毎年7/21～31)にちなみ、
蓮ダムにて1日ダム探検を開催しました。ダム堤体の
内部にある監査廊を通り抜け、放流設備を間近で見
ていただきました。また、ダム湖では巡視船「奥香肌
号」や作業船「かじか号」に乗って巡視体験も。ツアー
形式で、ダムの働きについてお伝えしました。このほ
か、浸水体感VRで
迫りくる洪水を体験
していただきました。
万が一の避難行
動に役立ててもらえ
ると幸いです。



主放流設備の見学



浸水体感VR



巡視体験